

第2学年 図画工作科学習指導案

日 時：令和5年11月22日（水）公開授業Ⅱ
対象児童：滝沢市立滝沢小学校2年3組 29名
授 業 者：荒川 美穂
（日本文教出版 1・2年下）

1 題材名 音づくりフレンズ –工作–

2 題材の目標

- (1) 音が鳴る材料や仕組みから、思い付いたものをつくる時の感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付くことができる。 [知識] (1)
- (2) はさみ、木工用接着剤、テープなどに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表すことができる。 [技能] A(2)イ
- (3) 材料を鳴らして感じたことや想像したこと、使った材料から表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] A(1)イ
- (4) 音を鳴らして自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げることができる。 [鑑賞] B(1)ア
- (5) 楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。 「学びに向かう力, 人間性等」

3 題材について

(1) 児童について

児童はこれまでに、1・2年上の題材「おってたてたら」で、切って折って立てた形から発想する経験、「かみざらコロコロ」で、転がる仕組みから発想する経験、1・2年下の題材「まどからこんにちは」で、窓の開く仕組みから発想する経験をしてきている。

ほとんどの児童は、造形活動を楽しみながら意欲的に取り組んでいる。題材に対して、自分なりに発想して表現できる児童は多いが、中にはイメージが湧かず、友達とすっかり同じような作品を作ってしまう児童や、経験の少なさから表現力が乏しい児童もいる。

ICT機器の利用については、用具の扱い方や作り方の実演に利用するほか、ロイロノートを使って作品を撮ったりテキストに構想を描いたりして、提出するなどの活用をしている。友達の表現や発想に触れやすくなり、互いの作品の面白さを感じ取ったり自分の発想を広げたりできる有効な手立てになっていると感じる。

(2) 題材について

本題材では、感覚を生かして材料や用具を使い、叩く、振る、弾く、こするなどして音づくりを楽しみ、音からイメージした形や飾りを工夫してつくる活動を通して、技能や発想、構想する力を育てる。また、友人と演奏したり聞き合ったりして楽しむことで、自分の作品の価値を見いだしたり、表現の工夫や楽しさを感じ取ったりできるようにする。音当てゲームを取り入れることで、音からイメージできるものは何か、音をどんなものでどうやって鳴らしているのかについて興味をもって着目させられると考える。

また、児童一人一人が音の鳴る仕組みをつくった後、音からイメージできるものは何かを全体で共有したりグループで対話したりすることで、音のイメージに合う飾り付けを発想しやすくなると考える。さらに、友人と演奏したり聞き合ったりすることで、楽しみながら互いの作品のよさや表現の工夫、面白さに気付くことができると考える。

(3) 指導について

本題材の指導にあたっては、第1時において、まず音当てゲームを行い、音のイメージや音の鳴らし方などに着目させる。次に、児童一人一人が音の鳴る仕組みをつくった後、全体やグループで対話しながら、音の感じとその音にはどんな飾りが合うかについて考えさせる。その後、ワークシートに構想を記入させる。音の感じや材料からイメージを広げ、形や色を工夫しようとしているか見取りたい。

第2時では、構想を基に飾り付けをして仕上げる。つくっていくうちにイメージが変わったり、複合的なものになったりすることも認め、児童が主体的に自分の作品と関わり、イメージに合うように音の仕組みや飾りを工夫してつくれるようにしたい。

第3時では、互いの作品を鳴らしてみたり、一緒に演奏したりする。その中で、作品のよさや表現の工夫、面白さやものづくりの楽しさを感じ取れるようにしたい。

ICTの活用については、飾りの構想をロイロノートで提出することで、児童が様々な考えや発想に触れられるようにしたい。また、音の感じや演奏場面を動画で撮影することで、紙では残

することができない実際の音や動きも記録するようにしたい。さらに、作品の細かい部分を全体に示したい場面で映し出したり、鑑賞の際に自分や友人の作品を撮影してよさや工夫を記入させたりして活用したい。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知①音が鳴る材料や仕組みから、思い付いたものを表すときの感覚や行為を通していろいろな形や色などに気付いている。</p> <p>技①はさみ、木工用接着剤、テープなどに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表現している。</p>	<p>①いろいろな形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、材料を鳴らして感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。</p> <p>②いろいろな形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、音を鳴らして自分たちの作品や身近な材料などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>つくりだす喜びを味わい、楽しく音が鳴る材料や仕組みから、思い付いたものをつくる学習活動に取り組もうとしている。</p>

5 題材計画（3時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> 音当てゲームをし、活動の見通しをもつ。 音の鳴る仕組みをつくる。 音の感じやイメージに合う飾りを対話しながら構想する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知①（行動観察） 技①（行動観察） （作品分析） 	<ul style="list-style-type: none"> ○思①（行動観察） （シート分析） 	<ul style="list-style-type: none"> ・態（行動観察）
2	<ul style="list-style-type: none"> 音のイメージに合う飾りを付けて、音の鳴るすてきなものをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○技①（行動観察） （作品分析） 	<ul style="list-style-type: none"> ・思①（行動観察） 	<ul style="list-style-type: none"> ○態（行動観察）
3	<ul style="list-style-type: none"> 友達と作品を見合ったり演奏したりしながら、面白さや楽しさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知①（行動観察） （作品分析） 	<ul style="list-style-type: none"> ○思②（行動観察） （シート分析） 	

6 本時の指導（1時間目/全3時間）

(1) 目標

音を鳴らして感じたことや想像したこと，使った材料から表したいことを見付け，好きな形や色を選んだり，いろいろな形や色を考えたりしながら，どのように表すかについて考えることができる。

(2) 評価規準

観点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手立て
思考判断表現	音の感じや使った材料をもとにイメージしながら，飾りの形や色などどのように表すか考えている。	音当てゲームを通して，どんな音が楽しくイメージさせる。全体やグループでの対話を通して，音の感じや音に合う飾りについて意見を交わし，様々な発想に触れさせる。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点
導入 7分	1 導入 「音あてゲーム」	◇対話に関わる指導 □書くことに関わる指導 ●評価 ・教師がつくった音の鳴るもの（叩く・振る・弾く・こする）の音を聞かせ，どんな音がするか，どのように鳴らしているかを考えさせる。
	2 課題把握	
展開 35分	【学習課題】 音のなるものをつくって，音のかんじやざいりょうにぴったりなかざりを考えよう。	・本時の学習の流れを確認し，学習の見通しをもたせる。 □各自で用意した材料や教師が用意した材料を使って，叩く・振る・弾く・こするなどの方法で音が鳴るものをつくる。 ◇班隊形にして，つくりながら友人と交流したり教え合ったりしやすくする。 ・つくった作品の音を，音を鳴らす仕組み毎に発表させる。 ◇まず，教師がつくった見本について全体で交流させる。次に，3～4人のグループで，一人一人が自分の作品の音を聞かせたり，音の感じや飾りについて話したりしながら，インタビュー形式で対話させる。悩んでいる児童には，友だちもアイデアを出したり一緒に考えたりして，相談できる時間とする。 ・飾りについての構想を児童に発表させる。 【例】インタビュー形式での発表 ①どんな飾りにしたいか？ →秋らしい感じ ②わけは？ →中にどんぐりを入れたから。 ③色や形をどうするか？ →色は赤やオレンジを入れて，形はイチョウの葉に切った紙を貼りたい。
	3 解決の見通し 4 課題を解決する。 (1) 音の鳴るものをつくる。 (2) 音の感じや材料に合う飾りの構想を立てる。 ①全体交流 ②グループ対話 ③全体交流	
終末 3分	5 振り返り	・分かったこと，できたこと，友だちとのかかわりで良かったこと，これからのことなどを発表させる。 【例】 ・音の感じから飾りを考えられた。飾りをつけるのが楽しみ。 ・友だちが形のことをアドバイスしてくれて良かった。
	6 次時予告	・飾り付けをして，仕上げることを伝える。

(4) 板書計画

音づくりフレンズ

音のなるものをつくって、音の感じやざいりょうにぴったりなかざりを考えよう。

学習1 音のなるものをつくる。

学習2 かざりをどうするか考える。
(話し対話)

ふりかえり

